



# 大樹のこころ

## 家康学習の集大成

本校の大きな特色として家康学習が挙げられます。徳川家康にゆかりのある大樹寺小では、家康公の教えを教育の根幹に位置づけ、6年間かけてその業績と精神を学んでいきます。1年生から少しずつ家康公の生き様を学び、卒業を控えた6年生では、その集大成的な活動を行っていきます。それが「大樹寺っ子ガイド」です。これは6年生が大樹寺に出向き、訪れる観光客を相手に家康公についてまつわるエピソードをガイドするというものです。これまでの学びを生かした「一大イベント」です。

本日から大樹寺っ子ガイドがスタートしました。先陣を切るのが6年1組です。ガイドの内容は多種多様。本校の総門や家康像の前でのガイドもあれば、大樹寺の本堂での説明もあります。総門前では寸劇を通して、家康公が天下統一への決意を固めた自立の姿が紹介されます。本校の正門前では、運動会で高学年が披露した野外劇「家康の自立」の舞が披露されていました。大樹寺の本堂では「厭離穢土、欣求浄土」についての解説がなされています。さらに奥に進むと、「椎の木」や「祖洞和尚の門」についてガイドするチームが待ち受けます。紙芝居ありクイズありと聞く者を飽きさせません。子供たちの解説を聞いていると、その知識の深さに感心することしきり。3学期に入ってから、総合学習の時間に6年生は準備を進めてきましたが、実に立派なガイドです。

一般の観光客に交じって、本校の5年生以下の子供たちもガイドを聞きにやってきました。ここにも本校が大切にしている異学年交流の姿があります。6年生のガイドを聞いて、下の学年の子供たちは学びを深めると同時に「いつかは自分もガイドをしたい」と憧れをもつようになります。この憧れが、本校の伝統を受け継いでいくことになるのです。

この大樹寺っ子ガイドは、19日(水)は6年2組、20日(木)は6年3組と続きます。各学級でガイドの方法に違いがあり、どんなガイドが見られるのか楽しみ。保護者の皆様も、時間があれば大樹寺に赴いて、子供たちのガイドを聞いていただけたら幸いです。



### 【ヤクルト東海出前授業】



先週の金曜日、1年生を対象にヤクルト東海出前授業が行われました。テーマは「うんち」。大腸を健全に働かせるために大切なことを子供たちは学びました。1年生の素直な反応にほっこりしてしまう場面が多々ありました。